



Botswana Medical Information



2018年5月

【新聞報道等】

●職場での健康、安全は重要

国際労働機関（ILO）の定める、世界労働安全衛生の日・児童労働反対する日に、労働者達は職場で死亡やけがをした人々を追悼した。

国内では2017年/2018年度には34件の事故が労働省に報告され、うち12件が致命的であった。

また式典にてUNICEF代表は、ボツワナの2005年から2006年の統計では5万人の児童が労働に関与していることが示唆されているが、統計が古すぎて政策立案者らが現在の状況を把握できないため、労働省に最新の統計を提示することを求めた。

（2日デイリーニュース）

●カトレン地域でマラリア発生

カトレン地域で15例のマラリアが発生し、内1名が死亡した。

発生が報告された都市はリバービレッジのMabalane, Sikwane, Mmathubudukwane, Malowane Ramonaka であるが、Oodi, Artesia で一名ずつ発生の報告がある。この地域は通常は大変乾燥した地域に属するが、最近強い降雨の影響を受けていた。（9日デイリーニュース）

●大統領夫人、ウィメンズヘルスに力を入れることを呼びかける

ネオ・マシシ大統領夫人は2日間の国際ウィメンズヘルス会議のキーノートスピーチにて、今後の世代に大きなインパクトを与える政策として、2002年、国民に対するHIV治療の開始と、2015年より開始した、少女に対する子宮頸がん予防のためのHPVワクチンであると述べた。

また女性の健康は、国家の健康の主要因であり、社会が前進するには女性が教育を受け、権限を付与されなければならないと述べた。（18日デイリーニュース）

●パキスタン人医師の医療協力

ボツワナパキスタン協会は、2名の医師と1名の医療者をツエツエバイクリニックに派遣し、診断や薬の提供を無料で行った。

（22日デイリーニュース紙）

●トロックウェンクリニックで薬が不足

トロックウェン地域事務所担当者が述べたところによると、医薬品の不足が継続しており、国の充足目標値である97%を下回る72%となっている。HIV検査の受診率に関しては、目標を超え、母子感染の報告はなかったが、乳児のHIV検査結果の報告が遅いことにより早期の診断、治療に支障を来している。137人がHIV治療を新規に開始し、うち9名が死亡した。ホーム・ベースド・ケアプログラムに8名が加わり計59名となったが、ボランティア不足が報告されている。また性行為由来感染者数が増加している。国境での検疫も強化しており、適合していない化学薬品や医薬品を回収した。

(24日デイリーニュース紙)

●Letlhakeng ポリクリニック のアップグレード

保健省大臣は首長からの質問に対し、今年度の予算にて、Letlhakeng ポリクリニックを、ベッド数26床、外来、産科外来、レントゲン、歯科、検査、小手術室を備えるように改修する旨、述べた。また central medical store (国の薬品倉庫)への薬品調達不足、人材不足、医薬品の医療機関への配布が効果的になされていないという認識を示した。

(25日デイリーニュース)

●ボツワナで使用されているAIDS治療薬と先天障害との関連性について

ボツワナで行われた研究の途中経過によると、ドルテグラビルを使用した妊婦より生まれた乳児4人に二分脊椎等(椎骨の間より脊髄が露出した状態)の神経管閉鎖障害が認められた。米国、欧州医薬品薬事当局は妊娠を考慮している女性への使用しないよう注意を促している。ボツワナは2016年に treat all キャンペーンを開始以来、新規に治療を始める患者を対象に、この薬品が使用されている。ドルテグラビルと神経管閉鎖障害との関連はまだ確定したものではなく、葉酸欠乏や肥満等も障害の原因となる。

(20-26日サンデースタンダード)

(注: ボツワナで11,558人のHIV陽性の女性から生まれた子供を調査した結果、ドルテグラビルを使用した0.9%(426人中4人)に対して、他のHIV治療薬を使用した0.1%(11173人中14人)に神経管閉鎖障害をみとめた。 出典EMA ホームページ)

【医療トピックス】

●南アフリカにおけるリステリア症の流行（続報）

（6月11日付，南アフリカ保健省レポートより）

昨年来南アフリカにて発生している，加工食肉製品に由来するリステリア菌による食中毒の続報です。（2017年12月の医務官レポートもご参照ください。）

3月4日に原因となる食品がエンタープライズ社の加工食肉製品と判明し，回収措置がとられた後は，報告件数は減少しており，最近は1週間あたり数件となっています。

2018年6月5日時点で，報告件数は計1049件（検査にて菌が検出された件数）。

●インフルエンザのシーズン到来

当地でのインフルエンザの流行は，日本ほど目立つことはありませんが，南アフリカの情報を参考にすると，冬期（5月から8月頃）に発生しています。

一般的に言われている風邪は，ウイルスの感染により上気道症状（のどの痛み，鼻水，咳）が出現します。インフルエンザは，上気道症状に加え，高熱，筋痛，頭痛などの全身症状も出現します。通常は1週間程度で回復しますが，希に肺炎や脳症など重症な症状を引き起こすこともあります。

インフルエンザに感染すると重症となる可能性のある方（妊娠中，乳幼児，ご高齢の方，免疫力の低下している方，心臓，呼吸器等のご病気をお持ちの方）は，ワクチン接種により重症化を予防することが可能です。

インフルエンザワクチンは，地域（北半球，南半球）により流行する型が異なることもあり，ワクチンはそれぞれの地域に対応するものを利用しています。当地のクリニックに於いても，ワクチンを受けることが可能です。

インフルエンザは，患者さんのくしゃみ，咳などより感染します。

感染予防策として，外出後の手洗いや，適度な湿度により気道の乾燥を防ぐ，体の抵抗力を高めるための十分な休養と栄養が有効です。また咳，くしゃみが出るときは，マスクを利用し，周りの方への感染を防いでください。

文責：高原 野草（在ボツワナ日本大使館医務官）